

# 川越市立博物館 第33回 収蔵品展



令和8年3月21日(土)~5月24日(日)

✳ 開館時間 午前9時~午後5時 (入館は午後4時30分まで)

✳ 休館日 毎週月曜日(5/4は開館)、3/27(金)、4/24(金)、5/7(木)・22(金)

## ✳ 入館料

一般 200円(160円)、大学生・高校生 100円(80円)、中学生以下 無料

※( )は20名以上の団体料金

## ✳ 交通案内

●東武東上線・JR川越線「川越駅」または西武新宿線「本川越駅」から

東武バス(蔵のまち経由)「札ノ辻」下車徒歩10分

東武バス「川越運動公園/埼玉医大/上尾駅西口」ゆき「市役所前」下車徒歩5分

川越市立博物館

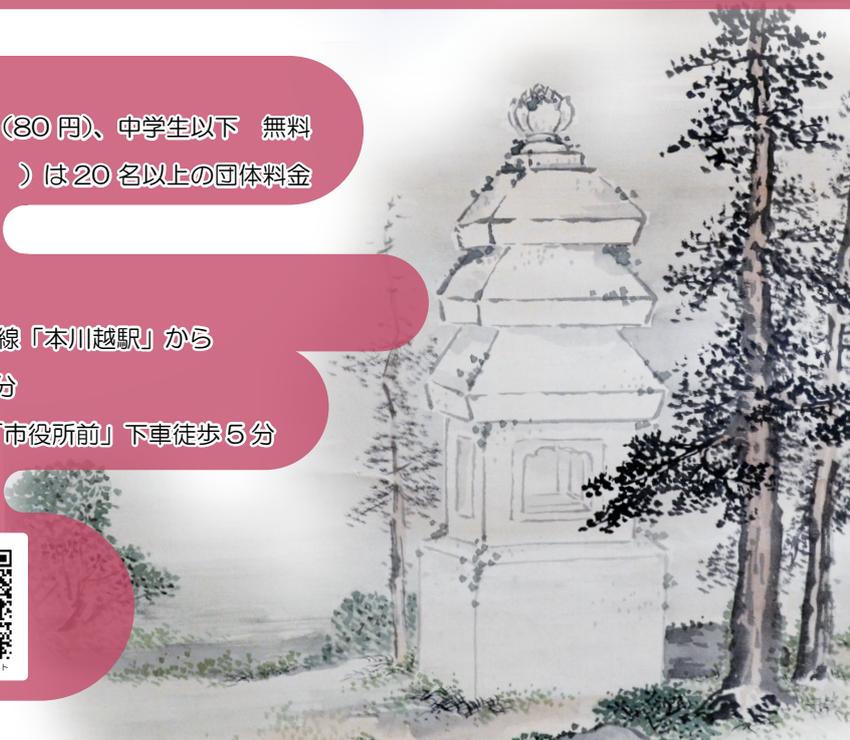
〒350-0053

埼玉県川越市郭町2-30-1

☎049-222-5399



ちでつくって!ウェブサイト



現存する人類最古の道具はおよそ260万年前のもの。「石」で出来ています。  
ここから言えることは…

- ①古くから石は、ヒトにとって身近な存在である
- ②素材としての石は硬く、なにより長命である

気の遠くなるほどの昔から、わたしたちの身近にある「石」は、木や骨などとともに生活道具の素材として用いられました。使われ、捨てられ、そして土中に埋もれた石は、腐ることなく数百年、数千年、数万年の時を経て、今わたしたちの目の前に現れます。石はその性質ゆえに、各時代に色々な形へ加工され、様々な用途、場面で使われてきました。

硬く、丈夫で安定感があるという特性は、単に素材として重宝する以上の存在感や安心感を人々の心に与え、特別な力を宿すものとして神の依り代などに使われることもありました。中には、綺麗な色や輝き、文様を持つ石もあります。それらを身につけることによって自身の内側にある美や力を表出できると考えた人々は、装身具や威信具の素材として盛んに用いました。

またある時は、永く我が名を、功績を、大切な決め事を、“知らしめたい。共有したい。今の気持ちを残したい。不変の信仰心を示したい。”——そう心に願った人が、石に文字や記号、図像を刻み込み、大地に据え置きました。

このように「石」は、取るに足らない「石ころ」ではなく、私たちの心身の可能性を広げ、人と社会をつなぎ、形の無いものを形にすることで人々の生活の礎石ともいえる存在であり続けました。

本展覧会では、当館所蔵資料の中から「石」に着目し、石と歩んだ人々の歴史と生活を概観します。ご観覧いただいた後、みなさまの日常を蔭になり日向になり支える「石」が、これまでよりも輝いて見えれば、幸いです。

令和8年3月21日

川越市立博物館

### 第33回収蔵品展「石でつくった！」 展示構成

- 第1章 石を使った : さまざまな時代に、多彩な目的のために創り出された石製品の展示
- 第2章 石で飾った : 美しく、人の目と心を惹きつける石の展示
- 第3章 石へ記した : 文字が記された石や、石碑の拓本の展示
- 第4章 石に祈った : 呪術や儀式の道具、信仰の表明や対象として用いられた石の展示

関連イベントは、  
表面のQRコードから  
ご確認ください!!

